

私たちの町の文化財

■二王堂の地藏板碑

独鈷山北裾の池上町二王堂地区は、かつて池辺寺の入口だったと考えられている所です。ここに、高さ115.5cm・幅96.5cm・厚さ15cmの地藏板碑があります。それには、右手に錫杖、左手に宝珠を持ち、中央に円光背をそなえたお地藏様が刻まれています。

「子供の守り神」として親しまれているお地藏様。如来・菩薩・明王・天と4階級に分かれている仏像界の中で、ナンバー2の菩薩グループに所属します。菩薩はナンバー1の如来を目指して修行中の身ですが、この世に現れて、悩んだり苦しんだりしている多くの人々を救ってくれる仏様なのです。観音菩薩や弥勒菩薩と違って、地藏菩薩が頭を剃り上げた坊主姿をされているのは、「最も我々庶民の身近に居ますよ」ということの表れかもしれません。

現在は摩滅によってほとんど読めませんが、板碑中央に刻まれた地藏菩薩の左右には、多くの坊と僧名、そして「永正十一年〇月八日敬白」と刻まれています。これにより、この石碑が室町時代の永

正11年（1514）に建立され、池辺寺のたくさんの僧侶が関わったことがわかります。池辺寺という池上町百塚地区を中心とした平安時代初期の池辺寺が有名ですが、戦国期にも多くの坊があり、かなり有力なお寺であったことを物語る史料です。

熊本市観光文化交流局文化振興課

谷川亜紀子氏



如来、菩薩、明王、天
と仏像にも階級がある
とは・・・
知らなかったモン

